

昭和十六年十二月十日  
 本資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、重慶又は第三國筋の宣傳の意圖による  
 作爲的なる報道も少なからざるべきを以て取扱には特に注意を要す

外國宣傳情報 第百八十號

昭・一六・一三・一一  
 情報局第一部第二課

◎石油涸渴は日米戦に到らしむ

△彙港電臺 十二月十日 英語放送

（彙府發）政府鑛山當局者の信ずる所では日本をして日曜日の無謀極まるパール港襲撃を  
 なさしめるに到つた裏面の理由は日本の非常なる石油不足の困難であるとしてゐる。日本  
 は撻頭撻尾短期戦を企圖してゐる。この近代戦では石油こそ最重要なるにも拘らず日本は  
 その必要供給を全く海外よりの輸入に依頼してゐる。

また右當局者は次の様に述べてゐる。即ち日本の石油供給源の大部分はシーエル泊及他の  
 人造石油であるがこれら合計して僅かに八百三十萬バレルに過ぎず、この量の約四倍の

三千百萬バレルを輸入してゐる。この數字を基にすると、日本は長期戦を遂行するに足る十分なる油の準備はなし得ない譯である。

◎獨逸、日本のソ聯攻撃を煽動

△桑港電臺 十二月十日 英語放送

(華府發)華府に達した各方面よりの確實なる情報綜合すると、獨逸はシベリアのソ聯軍の弱力なる點を指摘して日本が板東に於て赤軍を攻撃することを望んでゐる。又其他の確證によつて獨逸は日本がソ聯を攻撃せずして米國破産に向つたことに失望してゐる様であるが、獨逸はなほも日本をしてウラジオを攻撃せしめるべく凡ゆる努力を續けてゐる。

◎伊米關係も爆發點に達す

△獨逸電臺 十二月十日 英語放送

(ローマ發)ローマ駐米大使は昨夜から重要書類焼却に着手した。これは明かに伊米外交關係逼迫に對する準備に外ならない。

◎亞國、在日英希利權を保護

△獨逸電臺 十二月十日 英語放送

(ブエノスアイレス發)英國及ギリシヤより要請ありたるに付き、亞國は日本に於ける英及希兩國の權益保護に當るべき旨本日聲明された。

◎ウルグワイも對日宣戰

△獨逸電臺 十二月十日 英語放送

(モンテヴィデオ發)當市に傳へられる所によるとウルグワイ政府は大統領に對し對日宣戰の認可を要請せり。

◎米國の産業生産部門舉國一致

△桑港電臺 十二月十日 英語放送

(華府發)對日戰のため必要なる政府のあらゆる生産計畫に對し米國勞働總同盟並に産業別勞働組合は全力を擧げて協力するものなりと聲明を發せり。